



サンゴの苗の植え付け報告

3月5日「サンゴの日」に合わせて開催した「1Post1Plant～サンゴの日フォトコンテスト2022～」。寄せられた応募アカウント数と同じ数のサンゴの苗96本を、5月11日に恩納村の海に植え付けました。サンゴの保護を通して地球環境や美しい海の未来を守る取り組みとして、志を同じくする企業や団体と始まった「未来とサンゴプロジェクト」。今回のサンゴの苗の植え付けは、恩納村漁業協同組合のご協力で行いました。当日の植え付けの様子をご紹介します。

96本のサンゴの苗をピックアップ

海中で育てられるサンゴの苗の様子



サンゴの苗は、漁業者たちが水中で作っています。養殖で増やした親サンゴの一部を折り、マグホワイトという材質のブロックに針金で巻きつけ、そのまま半年くらい棚の上に置いておきます。後にサンゴがブロックに活着(※)して、植え付けられる状態のサンゴの苗になります。

※活着: 枝打ちしたサンゴがしっかりと土台や岩盤につくこと

親サンゴは海底に打ち込んだ、鉄筋や棚の上でサンゴを育成する「サンゴひび建て式養殖」で育ったもので、恩納村では1998年からこの養殖方法が行われています。

ドリルとハンマーでサンゴの苗を植え付け

サンゴの苗の植え付け手順

- 1、ドリルで岩に穴を開ける
- 2、穴にサンゴの苗を挿す
- 3、ハンマーでブロックを叩いて岩に固定する

サンゴの苗の植え付けの様子



ドリルで岩に穴を開け、サンゴの苗を挿しハンマーでやさしく叩くという作業を一本一本行っていきます。岩にしっかりとつけることで、サンゴがそのまま岩に活着し成長していきます。

サンゴの成長には、有性生殖と無性生殖の二種類があります。有性生殖は、人間や動物と同じように、卵と精子が受精することで新しい個体をつくり、無性生殖は、アメーバのように細胞分裂によって増えていきます。植え付けは無性生殖を利用してサンゴを増やす方法で、岩に固定されたサンゴはそこに活着し、細胞分裂を繰り返すことで成長していきます。

この記事を読んでいる皆さまが恩納村を訪れた際には、サンゴの成長を見ていただき、サンゴを未来に残していくために何ができるのか、考えるきっかけになればと思います。

未来とサンゴプロジェクトとしても、より一層サンゴを増やす活動、環境保全活動を継続してまいりますので、サンゴを増やし守る活動に賛同いただける方は、寄付のご協力をぜひお願いできますと幸いです。

未来とサンゴプロジェクト公式HP (<https://www.softbank.jp/corp/sustainability/special/pj-coral/>)

▽募金ページ▽

ソフトバンクの携帯電話をご利用のお客さま【つながる募金】

<https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/select.jsp?corp=519>

それ以外のお客さま【Yahoo!ネット基金】

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5225001/>